

継承

～未来への絆～

特集

リニューアル記念インタビュー②

会報リニューアル記念第2号にご登場いただいたのは、1月3日に東京ドームで開催されたアメリカンフットボール日本選手権「第65回ライスボウル」で、学生王者・関西学院大学ファイターズを破り、チームを“2年連続日本一”へ導いた「オービックシーガルズ」の“大橋誠”ヘッドコーチ。茜浜にあるオービック習志野グラウンドを訪ねて、同席していただいた副将“ケビン・ジャクソン”選手、キッカー“金親洋介”選手、ワイドレシーバー“森健太郎”選手を交えて、“一流の社会人、一流のフットボール選手”として常に頂点を目指すシーガルズに受け継がれる“本気”のチームづくりについて伺いました。

オービックシーガルズの創部は、83年11月(当時はリクルートシーガルズ)。これまでに獲得したタイトルは、史上最多となる「日本選手権/ライスボウル優勝5回」ほか、「アメリカンフットボール日本社会人選手権制覇6回」を誇る日本一の強豪チーム。

クラブチームとなって、2003年からは茜浜を拠点として地域に密着した“ホームタウン活動”を展開。小学校の訪問授業や多岐にわたる地域交流活動を通じてアメリカンフットボールの普及活動に取り組むかたわら、“習志野商工会議所会員”として地域イベントにも広くご参加をいただいています。

少ない練習時間を

“自律”による“質”で補う

シーガルズは、クラブチームとして日本社会人アメリカンフットボール「Xリーグ」に所属しています。私たちが目指すのは、選手が主役の“選手のためのチー



▲ ライスボウルで戦況を見つめる大橋ヘッドコーチ

ム”づくりですが、選手の自覚と誇り、そして個性をもとにして日本一に向けて最大の努力を払っています。

お尋ねのように、私たちのようなクラブチームと実業団や学生チームとの最大の違いは練習量の差です。シーガルズの選手は、それぞれが別々の職業についていますから、集まって練習できるのは週末に限られます。練習に当てられる時間の少なさはクラブチームの宿命ですから、このことを前提としてチーム強化を図りますが、私たちは量で担保できない分は選手の“自覚”と“自律”によって得られる“質”によって補っています。

そのために、選手もコーチも徹底してコミュニケーションをとります。何よりも選手の“やりたい気持ち”を最大限に引き出すことです。選手の技術的な特長や最も得意なプレーを引き出すことを第一に考え、常に話し合います。試合の戦術や練習方法にしても、やらされているというのではなく、選手がやりたいことを導き出して、選手自らの工夫によって質的なアドバンテージを作り出すようにしています。

自主性と競争により 個性の集合体としてのチームづくり

私たちのチームは、選手のバックボーンが様々なので一律のルールを作っても統率が困難です。職業も先生から、銀行員、鍼灸師、商社マンもいれば自衛官もいる。東北在住の選手もいて全体練習は週末のみ。フットボールと仕事の両立を基本にして集まっていますので、規制でチームを統制するのではなく、型にはめずに選手の“自主性”によって個性を發揮させて、いかにして“個性の集合体”としてのチーム力を強化するかに重きをおいてチームづくりをしています。

会社でも社員が生き生きと働いてくれないと目標が達成されないのと同じで、私たちが選手自身がワクワクしてプレーすることが勝利のための最大の方法だと思っています。したがって、一般的に持たれているような規律に厳しい体育会系のイメージとは異質なものだと思いますが、練習中に何をやってはいけないというような禁止事項が非常に少ないのがこのチームの特徴です。

ただし、規律が緩いということではなく、チーム内に熾烈な“競争”があるということが絶対条件なのです。日本一を目指す一人ひとりの本気が選手の自律を促し、その結果としてチームの統制が得られる。目標達成のために、自分を律することのできる選手が生き残るという結果につながると考えています。

未知への挑戦をテーマにV3を

我々が、ワクワクするフットボールをやり続けるために、絶対に曲げないと決めていることは、何事にも“本気”で取り組むということです。

一人ひとりの本気が、チームの核心と考えていますので、本気でさえあれば、今までと違ったやり方でも、見っともなくても構わないと言っています。

そして、チームづくりで大切にしていることは、チームのための選手ではなく、選手のためのチームになることです。決して、選手におもねるのではな



▲ 左から 金親洋介選手、大橋誠ヘッドコーチ、森健太郎選手、ケビン・ジャクソン選手

く、“選手が主役”で勝つフットボールが私たちの目指すところだからです。

また、スローガンという形でチームの精神的な軸を持つことで、個性的な選手が集まるこのチームも一つにまとまります。危機的な場面を迎えても共通の目標に立ち返ることができると、チームスローガンも選手同士で話し合っ、自分たちがどのような攻撃をしたいのか、守備をしようとしているのかということの意思統一を図るように努めています。

2012年スローガン CONQUEST

「末踏の地を制覇する」を意味する言葉。2012年シーズン、シーガルズは未知への挑戦をテーマに戦います。それを成し遂げるためには、チーム・個人が日々進化することが不可欠のことと考え、進化するために、日々の戦いを征していかうという思いを込めています。

また、この言葉は、CON=共に・QUEST=探求するという意味も内包しており、進化するための探求を常に続けていくシーズンにします。

世界を見据えつつ

クラブチームとして地元と生きる

今は、ファンが世界のトッププレーをリアルタイムで見られるようになるなど、当然のことながら、スポーツの世界でも多様化とグローバル化への対応が強く求められています。

まして、本場のアメリカンフットボールと比較されるのが私たちの宿命ですが、いつか“世界有数の強いチーム”になりたいという気持ちで取り組んでいます。まずは、今シーズンの最大目標である“3年連続”

の「ライスボウル」優勝に向けて、他チームからの厳しくなるマークについて考えるよりも、何をにおいても自分たちのパフォーマンスレベルを高めること、とりわけ攻撃の精度を上げることにポイントをおいて戦い抜きます。

同時に、これまでどおり、地域と生きる“ホームタウン活動”を運営の柱にすえて、小学校の訪問や体験教室という形で、フラッグフットボールを通じて子どもたちにスポーツの楽しさを普及したり、選手もチャリティーも様々なイベントに参加させていただいて、地域の皆さんのお役に立ちたいと思っています。

シーガルズが、地元のチームとして市民の方々から応援されることは、選手の大きな励みです。皆さんのためにも必ず勝ちたいという強いモチベーションになりますので、声援を送ってくださるファンが増えることは、我々が最も大切にしている選手の“やりたい気持ち”を引き出すことと同じで、チーム強化の一つと考えています。

惜しみない声援を送ってくださる地域の方々や力強い支援をくださる市役所、商工会議所の方々の期待に応えるためにも、更に強くなって勝利で地域に貢献するとともに、これからも“ホームタウン習志野”のために何ができるかということに常に念頭において、V3の達成を目指して頑張ります。



オービックシーガルズの公式ファンクラブ「ブースタークラブ」に入会して熱い日本の戦いに参戦しましょう。

入会方法等詳細はオービックシーガルズホームページをご覧ください。http://www.seagulls.jp/